

6 総合評価D・Eの児童・生徒に対する取組

(1) 総合評価のワンランクアップを目指すための目標設定の手立て

児童生徒の体力向上に向けた一般的な結果データ活用例

- 測定結果の分析
- 次年度への目標設定
- 体カトレーニングの処方

【スモールステップの目標設定】

- 次年度への目標設定は新体カテストの測定の際や日々の運動に対するモチベーションの維持に重要であり、有効な手立てです。
- 総合評価D・Eの児童生徒にとっては、日々の運動を積み重ね、一気にB以上を目指すことは大変困難なことです。

総合評価D・Eの児童生徒には、スモールステップの目標設定を行い、各測定項目のプラス1～2点の向上と総合評価のワンランクアップを目指すことが現実的な課題です。また、そのスモールステップの目標を達成させることにより、運動の楽しさや喜びを味わわせ、自発的に運動に取り組む日常化につなげていきましょう。

STEP 1（測定結果の分析）

- 今年度の測定結果の分析による得点アップの目標達成項目の洗い出し

STEP 2（次年度への目標設定）

- 次年度の総合評価（A～E）のワンランクアップのための重点課題項目の設定
※ 重点課題項目の数は3つに絞り、「体力向上チャレンジ3」と名付けます。

STEP 3（トレーニング処方）

- 「体力向上チャレンジ3」課題達成に向けての具体的実践内容の設定
※ 具体的実践内容は、体力向上の取組事例や各種補助資料等を参考にさせます。

STEP 4（実践の経過チェックとサポート）

- 体育の授業や日常の学校生活でのサポート
- 定期的な測定による経過チェックと称賛や助言
- 重点課題項目や具体的実践内容の見直し・修正

次年度の新体カテスト測定



「体力向上チャレンジ3」

()年()組()番 氏名()

1. 今年度の体力テストの結果を分析し、次年度の目標設定をしよう。

8項目の得点合計				点	総合評価			E・D	
今年度の記録	kg	回	cm	点	回/分・秒	秒	cm	m	
今年度の得点	点	点	点	点	点	点	点	点	
項目	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	20mシャトルラン または 持久走	50m走	立ち幅跳び	ハンドボール投げ	
次年度目標得点	点	点	点	点	点	点	点	点	
次年度目標記録	Kg以上	回以上	cm以上	点以上	回以上/分・秒以内	秒以内	cm以上	m以上	
目標とする 8項目の得点合計				点	目標とする総合評価			D・C	
重点課題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
	次年度に向けて、特に力を入れて運動を行う項目の上位3つを選び、○の中に1～3の数字(順位)を書き入れよう!								

2. 重点課題項目の目標達成に向けて、定期的に測定を行い、チェックしよう。

測定月		7月	9月	11月	1月	3月
重点課題1	項目名 ()					
	次年度目標記録 ()	目標達成まであと ()	目標達成まであと ()	目標達成まであと ()	目標達成まであと ()	目標達成まであと ()
重点課題2	項目名 ()					
	次年度目標記録 ()	目標達成まであと ()	目標達成まであと ()	目標達成まであと ()	目標達成まであと ()	目標達成まであと ()
重点課題3	項目名 ()					
	次年度目標記録 ()	目標達成まであと ()	目標達成まであと ()	目標達成まであと ()	目標達成まであと ()	目標達成まであと ()

☆定期的に測定することは、本番に向けての練習、体を動かす意識の向上にもなります!

(2) その他の総合評価D・Eの児童生徒への手立て

ア 運動やスポーツの楽しさや充実感を実感させる取組

- 体育の授業で、運動が苦手な児童生徒でも楽しめるルールや作戦を工夫し、運動の特性に触れる喜びを実感させる。
- 学習カードのコメント欄では、本人の努力を認め、称賛する内容を記入し、次時のアドバイス等も併せて記入する。
- 授業で取り扱う運動が新体力テストのどの項目の体力要素と関係しているかを理解させ、単元を通して意識させる。
- 準備や後片付けの際に意図的に声をかけ、活動以外の場でも体育の授業に貢献している実感をもたせる。
- 体育の授業や体育的行事での活動の様子を写真や動画に記録し、本人や保護者に提供することにより、積極的に運動やスポーツに親しんでいることを実感させる。



イ 運動やスポーツの日常化を図る取組

- いつでも楽しみながらトレーニングや体力測定を行うことができる用具や目盛、掲示物等を教室や廊下等に設置する。
- 「外遊び・スポーツスタンプカード（仮称）」を作成し、休み時間や放課後、休日に外遊びやスポーツに積極的に取り組むための動機付けとする。
- 週1回や月1回など「ノーメディアデー」を設定し、テレビ・パソコン（スマホ）・ゲーム等に費やす時間が外遊びやレクリエーション等につながるようにする。
- いろいろな遊びを紹介したカードを教室等に設置し、仲間と一緒に気軽に体を動かす機会を増やす。
「(財)日本レクリエーション協会HP」や「(財)日本体育協会HP」等の「遊びプログラム」を参照
- 地域やスポーツ団体が行うイベントの案内や広報誌、ホームページを紹介する。
「さあ！みんなで参加しよう！宮崎県総合型地域スポーツクラブ」（宮崎県教育庁スポーツ指導センター発行）
「M☆SPO LIFE（エム☆スポライフ）」（宮崎県スポーツ施設協会発行）
各総合型地域スポーツクラブが発行する通信や紹介誌等
- 万歩計を渡し、1日単位あるいは1週間単位での歩数を記録させ、日常生活における活動量の確保を意識させる。
- 自然体験活動（登山や散策、川・海遊び等）や徒歩・自転車による自力通学も体力向上のための手段の一つと捉えさせる。



ウ 学級担任との連携による取組

- 係活動や給食・清掃等の役割分担を決める際に、できるだけ身体的活動を伴う役割を与えるようにする。
- 家庭訪問や3者面談等を通して、家庭での生活習慣（食事・運動・休養）について把握し、体力向上の観点から改善が必要な状況があれば、保護者と連携し、生活習慣の改善を図る。
- 休み時間の様子を観察し、外遊びの機会が少ない状況であれば、周囲の児童生徒によるサポート体制や本人への声かけ等をお願いする。
- 学級通信や掲示物を通して、体育の授業や体育的行事等での本人の努力や成果を称賛したり、紹介したりする。

